教材・支援機器活用実践事例
【聞き誤りや聞き逃しを補う、視覚情報提供の工夫】

<table>
<tr><td rowspan="3">子どもについて</td><td>学校・学級</td><td colspan="2">小学校　特別支援学級（難聴）</td></tr>
<tr><td>対象の障がい</td><td colspan="2">聴覚障がい（伝音性難聴）平均聴力 右７３．８ｄＢ　左５５．０ｄＢ
構音障がい（口唇裂、小顎症、軟口蓋裂、後鼻孔狭窄）</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="2">交流及び共同学習（通常の学級での集団学習）</td></tr>
<tr><td>学習上又は生活上の困難さ</td><td>子どもの特性や教育的ニーズ</td><td colspan="2">○　聴覚障がいに関しては、中等度難聴で、伝音性難聴であるため、補聴器の装用効果が高い。音環境がよい場合、語音明瞭度は高い。ただ、聞き誤りがあり、単語の綴りを間違えることが頻繁にみられる。
○　構音障がいに関しては、発音がすべて鼻音化してしまうため、不明瞭に聞こえる。特に、破裂音や摩擦音などの発音が困難である。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教材・支援機器活用</td><td rowspan="2">使用した支援機器・教材の名称</td><td>実物投影機　超短焦点プロジェクター</td><td>小型ホワイトボード</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>活用のねらい</td><td colspan="2">聴覚障がいがあり、補聴器を装用しているが、音環境を整えたとしても、聞き誤りや聞き逃しがある。そのため、視覚情報を丁寧に提示することが必要である。そこで、実物投影機とプロジェクターを常設し、必要なときにリアルタイムで、視覚情報を提示できるようにしている。また、小型ホワイトボードを必要に応じて、難聴児の机の前に置き、初めて聞く言葉や英語の発音などを文字化して提示し、音韻情報が正しく伝わるように配慮する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業における支援・教材の配慮事項</td><td colspan="2">国語の場合は、挿絵や教材文など、算数の場合は、ブロックの操作や図形などを拡大して投影しながら説明することにより､理解を深められるようにする。
ミニホワイトボードに、キーワードや単語の綴りを書き示し、確実に新しい言葉に触れられるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">子どもの変容や評価</td><td colspan="2">実物投影機の使用により、視覚情報を提示する機会が増え、教師の話を理解しやすくなった。
ミニホワイトボードの使用は、音韻情報を確実に、見せることができるため言葉を学ぶ機会が増えた。</td></tr>
</table>